第４７０回鉄鋼流通問題懇談会

２０２５年7月２９日（火）１４：３０
茅場町「鉄鋼会館４階」日本鉄鋼連盟・第一会議室

議　題

１．　新担当ご紹介：中島圭介（なかじま　けいすけ）氏　ＪＦＥスチール㈱営業総括部 営業総括室主任部員
２．　配布資料説明（全鉄連）
３．　全鉄連情勢報告
　（１）地区の状況
　　〇東京（鉄流懇・提出資料参照）
　　〇東京、大阪、北陸地区概況報告
　（２）総括：井上全鉄連会長
４．意見交換
５．テーマ「働き方改革について」（仕事の仕方がどう変化しているのか？その対策と改善すべき点、等）
６．総括：赤木鉄流懇会長
７．次回会議予定
　　２０２５年１０月３１日（金）１４：３０～　　於：茅場町「鉄鋼会館４階」日本鉄鋼連盟・第一会議室
　　次回テーマ：「トレーサビリティの取り組みについて」（ミルシートと現品情報の紐づけ、鋼材ラベルの貼り付け方法、自動化対応など）

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（２０２５年７月）　　※ゴシック太字部分は既に公表している箇所

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	エムエム建材
1. 需給動向(景況感)	人手不足及び建設費高騰もあり、全国的に建築建材分野は着工件数の低調が継続しており、需要は引続き低迷中。製造業向けも米国関税問題などで生産の不透明感が強く、実需も低調。価格面では需要低迷の中で流通各社は何とか踏ん張っているものの、一部物件対応では安値対応の噂も聞こえる状況。溶協メーカーが値下げを実施した影響もあり、市況は弱含みで推移している。	**2025年5月末薄板三品在庫（速報値）は、前月比2.5%増の400万トンとなり、2ヶ月連続で増加すると共に7ヶ月振りに400万トンを超える結果となった。在庫内訳はメーカー在庫が前月比4万3千トン増の166万4千トン、問屋在庫が同2万5千トン増の84万8千トン、コイルセンター在庫が同2万8千トン増の148万8千トンとなった。在庫率は2.97ヶ月となり前月比0.14ポイント増加した。** 需要環境については低調であり、回復の兆しが見られない状況が続いている。需要分野である自動車販売が5ヶ月連続で前年同月比増となっているが、自動車以外の製造業が低迷していること及び建築分野の低迷の影響が大きい。今後、トランプ関税の自動車生産への影響が懸念される。	2025年4月末の全国厚中板在庫は338千トンで前年平均比30千トン減。4月は受け入れ量が出荷量を上回っており、在庫率は全国ベースで前月比9ポイント上がりの258%となった。2024年7月から在庫率は減少傾向にあり、適正在庫率と言われる200%に近付いていたが、2025年4月、8か月ぶりに受け入れ量が上回る結果となった。需要に関して、分野・地域を問わず極めて厳しい状況が続いており、回復の兆しが見えない状況である。特に、建築では引き続き中小案件が足元鈍く、首都圏の大型再開案件待ちの状況が続いている。産業機械関連は中国需要減退に伴い、荷動き悪い状況が続く。また、8月発動予定の相互関税は、建設機械、産業機械向け需要に影響が出る恐れがある。全体的に荷動きが悪いこともあり、供給面ではタイト感は感じられない。	【棒鋼】**普通鋼電炉工業会は7月7日、2025年度の鉄筋用小形棒鋼の国内向け出荷数量が588万トンと前年度比5%減少する予測を発表した。**3年連続で過去最低を更新する見通しで、初めて600万トンを割り込む予想。又、現場で4週8閉所の導入も進められており、工期の長期化に拍車がかかっている。足下～今後の引合いも低調な事から、先安警戒の動きも出ている。 【形鋼】首都圏の再開発を始めとした大型案件については、引き続き堅調であるが、主に在庫流通が関わる2,000㎡未満の小規模案件は、前年比微減傾向となっており、低迷が続いている。各FABの山積みは平均7割の稼働であるが、予定物件の中止や見直しにより、山積みが空いてしまう事象も散見される。市況は弱含みで推移するものと思料する。
2. 需要産業動向	**【建築土木】25年5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比34.4%減の4万3,237戸で2ヶ月連続の2桁台の減少。改正建築物省エネ法や改正建築基準法の施工に備えて3月に駆け込み需要があった反動減。内訳は持家は1万1,920戸で同30.9%減、貸家は1万8,893戸で同30.5%の減。分譲住宅も1万1,924戸となり同43.8%の大幅減となった。** **【自動車】25年6月の国内新車販売台数は39万3,160台で前年同月比5.2%増。乗用車は21万7,333台で同2.9%増、軽自動車は11万1,785台で同10.9%増となった。** **【建産機】25年5月の建設機械出荷金額は内需は701億円で前月比6.1%の減。外需は1,889億円で同1.5%の減。内需は10ヶ月連続、外需は3ヶ月連続の減少。地域別ではアジアが6ヶ月連続で増加するものの、全9地域中6地域が減少となった。** **【造船】25年6月末の手持ち工事量は620隻、2,999万総トンで前月比14万総トンの増加となった。約3.8年分の工事量となる。**	**2025年5月の自動車国内販売は29万8千台（前年同月比3.8%増）と5ヶ月連続のプラス。乗用車が24万4千台（同2.3%増）、トラック5万4千台（同9.0%増）となった。** **5月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,283億円（同6.4%増）と2ヶ月連続の増加となった。ルームエアコンは2ヶ月連続のプラス、電気冷蔵庫も同2ヶ月連続のプラス、電気洗濯機は2ヶ月連続のマイナスとなった。民生用電気機器全体では、ルームエアコン、ジャー炊飯器、IHクッキングヒーター、電気シェーバーが二桁増となったことが牽引し、前年同月を上回った。** **国土交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は4万3千戸（同34.4%減）と2ヶ月連続のマイナスとなった。持家、貸家、分譲住宅ともに法改正施行前の駆け込み着工の反動変により2ヶ月連続で減少した。また、季節調整済年率換算値では前月比15.6%の減少となった。**	造船業界は引き続き好調である。手持ちの工事量について国内造船メーカーは手持ち工事量3.6年分程度の仕事量を確保している状況。 世界経済の拡大にともなう海上輸送量の増加や、過去に大量に建造された船舶の代替需要などによって、新造船市場は中長期的に拡大していくと見られる。2030年代には、2010年前後のピーク期に竣工した船舶の更新需要が見込まれ、船舶建造需要が年1億総トン規模まで増加するとの予測もある。新造船需要が世界的に拡大している。2025年4月の起工量は814トンと2024年の月平均起工量比5.9%増となった。 建築業界では、非住宅着工床面積は変わらず減少傾向である。前期に続いて2025年下期の鉄骨需要も370−390万トンの低移が続くと想定される。当面厳しい状況が続く見通し。 建設機械業界の4月の出荷金額は国内外合計2583億円であった。25年度の出荷額の内訳は輸出向けが2兆414億円、国内向けが9300億円との予測もある。24年度比では国内外ともに横ばいを見込む。 産業機械業界の4月受注高は5,427億8,600万円と、前年同月比5.0%増となった。内需は、3,658億1,700万円、前年同月比▲11.5%減。外需は、1,769億6,900万円、前年同月比70.9%増となった。 機種別では、石炭・石灰、外需の増加により、化学機械・タンクが好調、	【棒鋼】**国交省発表の5月新規住宅着工戸数は43,237戸で前年同月比34.4%減、そのうちマンションは4,778戸で同56.5%減、戸建て住宅は7,083戸と同29.9%減となった。**人件費や資材価格の上昇による建築費の高騰などが影響し、住宅価格が押し上げられたことで購入意欲が減退している。 【形鋼】**国交省より発表された5月度着工統計からの全国鉄骨推定需要量は29.1万トンとなり、4月の37.9万トンを大幅に下回る結果となった。**4月は大規模物件の着工が大きく数字に寄与したが、足下は中小物件同様に落ち着いてしまった。しばらくはこのレベル感が継続する見込み。
3. 輸出入動向	**2025年5月度鋼管輸出量** **継目無鋼管：1万9,099トン（前年同月比31.9%増）** **溶接鋼管：1万4,267トン（前年同月比23.4%増）** **2025年5月度鋼管輸入量** **継目無鋼管：　1,237トン（前年同月比11.7%増）** **溶接鋼管：1万0,251トン（前年同月比18.8%減）**	2025年5月の薄板三品輸入量は30万トン（前年同月比5.6%減）であった。主要製品別では熱延が12万3千トン（同12.0%減）、冷延が7万4千トン（同9.1%減）、亜鉛めっきが10万3千トン（同6.7%増）となった。5月末の岸壁在庫は14万4千トンとなり、前月比で3千トン増加した。 1月以降輸入量については30万トンを下回る数量が続いていたが、5月の輸入量は約30万トン（正確には29万9千トン）と5ヶ月振りに30万トン近い数量まで増加した。トランプ関税の影響により中国材を中心に輸入量が増加傾向にあることの影響とみられる。滞船状況についてはGWに入着した船からの荷下しが遅れているとの話はあったが、その後解消しており、足元の滞船状況は改善傾向。	2025年5月の厚板輸入量は4.9万トン。前年同月比46.3%増で4カ月ぶりの増加となった。2025年5月の厚板輸出量は20.7万トン。前年同月比16.0%減で2カ月連続の減少となった。 日本ミルは枠の埋まり具合や市況を見ながら価格対応を考えるという慎重な姿勢を見せる。価格推移はほぼ横ばいで、低位安定。Oil & Gas案件のLine pipeや海洋構造物案件、LNG Tankは比較的好調。洋上風力案件(台湾・欧州)は好調だったが、案件自体が延期・中止が相次ぐ状況。建機向け（特に中型・小型）は東南アジア向け・欧州向けDOWNしているが、マイニング分野に関しては比較的好調。各ミルは値上げを図るが安値の中国材に影響され、輸出価格は安値継続。	**◆直近の実績（25年5月）にみる輸出入状況は以下の通り。** **【輸出】** **形鋼：45千トン（前月比▲10%、前年同月比+13%）** **棒鋼：10千トン（前月比+12%、前年同月比▲29%）** **【輸入】** **形鋼：18千トン（前月比+55%、前年同月比+80%）** **棒鋼:0.8千トン(前月比▲28%、前年同月比▲67%)**
4. 海外市場動向	**25年6月の平均WTIは67.49ドル/バレルとなり、前月比+6.46ドル（+10.6%）。中東情勢が不安定な中で更なる上昇の可能性も懸念されている状況。また、トランプ関税の影響もあり、鋼材価格が上昇している中で米国内の鉄鋼生産があまり増えておらず値上がり圧力になるという意見や、国内に代替品がないので、コストがかさむという意見も出ている様子。**	**世界鉄鋼協会がまとめた世界70ヵ国の5月の粗鋼生産量は前年同月比3.8%減の1億5,880万トンとなり、前年同月を下回った。中国、日本、ロシアが前年同月比で減少となっており、全体を引き下げる結果となった。1-5月累計では前年同期比で1.3%減となった。** 各国熱延市況は軟調に推移。中国熱延市況は現物/先物ともに大きな変動は見られず、各社より粗鋼減産についても特段の発表は無く、原料価格の弱含みで一定のミルマージンを確保できていることから、ミルが自発的に減産に取り組む可能性は低いと推測され、政府主導での生産調整が期待される。	中国市況において、今年の全人代では財政政策の拡大や国債発行等の政策発表も、国内は依然として需要低迷。 一方原料炭価格は低位に留まっており、国内粗鋼生産量は比較的高水準にあり。需給の緩みに伴い価格は下落傾向。その後米トランプ大統領による関税戦争の影響を受け、先物価格は急落。関税政策の先行き不透明感による市場影響大きい。6月の粗鋼生産は8,318万mtと前月比で3.9%減、前年同月比で9.2%減。建設需要を中心に需要は依然低迷。大雨や猛暑等天候不順により屋外の建設活動が抑制。市中在庫も高位にあり市況は軟調化、中国の輸出シフト局面は継続する見込み。 中国の輸出価格に影響され、各国ミル共に安値でのオファー相続。韓国は中国材に対し暫定的にADとの判断。本調査の判定結果は早ければ7月末までに開示される予定。暫定関税の賦課により中国材厚板の輸入量が激減し、韓国国内市況は上昇。欧州厚板ミルも同様の動きで、内需は低迷中で市中に在庫も多いため、市況は低調に推移している。	**5月の中国粗鋼生産量は8,655万MTで前年同月比▲6.9%となり、前月より概ね横ばい。同国鋼材輸出量は前年同月比+10.0%の1,057.8万MTとなり、3か月連続で1,000万MT超え。内棒鋼類の輸出量は前年同月比+53.5%の180万MTとなり2017年3月以来となる高水準であり、形鋼類は+59.8%の77万MTと2014年以来の高水準となった。**中国材に対するAD措置は世界各地で広がりを見せるも、対象外品目やAD措置未対策の国・地域への輸出が増加している。各国の対策が進まない限り、輸出水準は維持されると予想される。足下話題となっている米国の関税政策にも引き続き注視が必要だが、中国材輸出の影響で、日本を含めたアジア市況は下落基調で進む懸念がある。

鉄鋼流通問題懇談会（２０２５年７月）

発表者 ＼ 発表項目	メーカー ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	・６月の日銀短観では、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（３月）調査比+1 の+13 と、若干良化した形（前回先行き比でも+1）になった。先行きは+1 の+12 と、若干の悪化を見込む方向になっている。 ・家計部門では、５月の小売業販売額が前年同月比+2.2％と 39 ヵ月連続の上昇。物価上昇などの影響により、拡大傾向が継続。 ・製造部門では、５月四輪車生産が前年同月比▲2.2％と５ヵ月ぶりの減少。５月の機械受注（民需）は前月比▲9.1％と３か月ぶりの減。 ・建築部門では、５月の全建築物建築着工床面積が 700 万㎡（前年同月比▲16.3％）となり、４か月連続の減。 （海外）　世界全体として、米国の関税措置の動向・影響が最大のリスク。その他各国の鋼材 AD・SG の動きも活発化し厳しい環境継続。 米国　：インフレ・高金利影響で低調な住宅投資や関税措置に伴う景気後退リスクへの様子見姿勢が鮮明化し、景況感は徐々に悪化。 欧州　：貿易摩擦による成長率の下押しあるも、軍事・インフラ財政支出の拡大、金利の引き下げが経済を下支え。 中国　：引き続き、不動産部門の不振長期化が成長を下押し。内需は力強さを欠く状況が続く。米国を始めとした各国の対中通商施策が続き、経済成長率は下方修正。政府の経済対策による挽回あるもカバーしきれず。 ＜国内鉄鋼需給＞ （生産）　・５月の粗鋼生産（速報）は 684 万ｔと前年同月比で２ヵ月連続の減少。 （出荷）　・５月の普通鋼国内向け出荷（速報）は 282 万トンと前年同月比で４ヵ月連続の減。輸出向け出荷は 178 万トンと２ヵ月連続の減。 （在庫）　・５月末の普通鋼鋼材国内向け在庫（速報）は 513 万トンと前月末比で２ヵ月連続の増。 ・５月末の薄板３品在庫は 400 万トン（前年同月比▲13 万トン）で２ヵ月連続の増。 ・５月末の厚板シャー在庫は 35 万トン（前年同月比▲3 万トン）で２ヵ月連続の増。
２．需要産業動向	〔建　築〕・５月の新設住宅着工戸数は 4.3 万戸（前年同月比▲34.4％）で２ヵ月連続の減。持家は、貸家・分譲全て減。 ・5月の非住宅着工床面積は353万㎡（前年同月比＋22.8％）で4ヵ月連続の増。使途別では、店舗・工場・倉庫は増、事務所は減。 〔自動車〕・6月の国内販売(輸入車除く)は35.9万台（前年同月比＋4.3％）で6ヵ月連続の増。 ・5月の完成車輸出は30.1万台（前年同月比＋1.9％）で2ヵ月ぶりの増。 ・5月の四輪車生産は62.8万台（前年同月比▲2.2％）で5ヵ月ぶりの減。 〔造　船〕・5月の造船受注量は88.4万ＧＴ（前年同月比▲72.1％）。手持工事量は2,985万ＧＴ（前月末比+1.1％）で3ヵ月連続の増。
３．輸出入動向	〔輸　出〕・５月の全鉄鋼輸出は 253 万トン（前年同月比▲8.9％）で２ヵ月連続の減。向先別では、ASEAN 向け増、韓・中向け減。 〔輸　入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は45万トン（前年同月比▲3.0％）で4ヵ月連続の減。
４．海外市場動向	・５月の世界粗鋼生産（推計含む）は１億 5,880 万トン（前年同月比▲3.8％）で２ヵ月連続の増。 ・６月の中国粗鋼生産（速報）は 8,318 万トン（前年同月比▲9.2％）で２ヵ月連続の減。 ・６月の中国鋼材輸出（速報）は 968 万トン（前年同月比＋11.0％）で４ヵ月連続の増。 ・中国市中在庫は、６月 27 日時点で 915 万ﾄﾝ（前年同期比▲28.3％）。春節明けの在庫ピークから、昨年比で減少傾向続く。